

2014年6月27日

“いつもの暮らしは経済的に、
非常時にはエネルギーを自律し、ライフラインを確保”
アイフルホーム全商品※¹に「自立型コージェネレーション+
大容量LPガスバルク」の『レジリエンス仕様』を設定！

株式会社LIXIL住宅研究所
アイフルホームカンパニー

株式会社LIXIL住宅研究所 アイフルホームカンパニー(住所:東京都江東区亀戸1-5-7/プレジデント:今 城幸)は、新たな提案として昨年10月に発表しましたコンセプトホーム「レジリエンス住宅CH14」のDNAを継承し、非常時のライフラインを確保することができる「自立型コージェネレーション+大容量LPガスバルク」をセットした『レジリエンス仕様』を7月1日(火)から全国のアイフルホーム加盟店にて発売します。

アイフルホームは、先の東日本大震災での教訓を活かし、非常時に自宅で必要最低限のエネルギーを作り出すことができる『レジリエンス仕様』を発売します。

『レジリエンス仕様』は、弊社の実験住宅である「レジリエンス住宅CH14」で実証実験を行った停電時でも使える「自立型コージェネレーション+大容量LPガスバルク」をセットにした仕様となります。



《レジリエンスの実証実験を行った『レジリエンス住宅CH14』外観》

今回ご提案する『レジリエンス仕様』はアイフルホームの主力商品の「セシボ」のみならず、平屋建て「AYA(アヤ)」、3階建て「スプリーム」など、アイフルホーム全商品※¹での商品設定となります。

※¹: インターネット限定住宅「i-Prime7」、賃貸住宅「EH メゾン-M」を除く

特長は、平常時は自立型コージェネレーション(発電量 1kW)による発電で、エネルギーを創り出し、同時に給湯を行います。非常時には、大容量LPガスバルクで自立型コージェネレーションを稼働させることができ、系統からの電気の供給がストップしても約1ヶ月※²にわたり、日常に近い生活が可能となります。これによりレジリエンス仕様を搭載した住宅は、非常時の災害活動拠点としても利用できると考えています。

停電時でも使える自立型コージェネレーションは、ガスを使って発電し、その際に出る排熱でお湯や暖房ができる無駄のない発電・給湯システムです。また、LPガス(液化石油ガス)は、石油に比べてCO²排出量が約30%少ないのが特長で、都市ガスと比較しても高効率なエネルギーです。

※²: 大容量LPガスバルクの残量が100kg以上で、4人家族が自立型コージェネレーションとガスコンロを使用する場合

アイフルホームは、その時代時代に求められる「良い家」を開発してきました。今後、発生が予測される大災害に備え、「レジリエンス仕様」は家族の安全・安心を守る“家”の役割に適切に応えられる商品となっています。

【報道関係者のお問合せ先】

(株)LIXIL住宅研究所 広報・宣伝部 担当: 千明
電話: 03-5626-8251 メール: chigirak3@lixil-jk.co.jp
アイフルホームホームページ/TOP URL: <http://www.eyefulhome.jp/>

新提案『レジリエンス仕様』概要

【提案名】『レジリエンス仕様』
自立型コージェネレーション+大容量LPガスバルク

【発売日】2014年7月1日(火)

【販売地域】全国(北海道、沖縄及び一部地域を除く)

【主な特長】以下、「レジリエンス仕様」の特長

自立型コージェネレーション(エコウィル+) + 大容量LPガスバルク(150 kg)により、平常時は自立型コージェネレーションが発電と給湯を効率的に行い、非常時には大容量LPガスバルクで自立型コージェネレーションを稼働させることで必要最低限の発電を行うことができ、約1ヶ月※にわたり、日常に近い生活が可能です。

※大容量LPガスバルクの残量が100 kg以上で、4人家族が自立型コージェネレーションとガスコンロを使用する場合

【販売価格】『レジリエンス仕様(自立型コージェネレーション+大容量LPガスバルク)』の

参考価格 約200万円(税抜)※

※ 本体価格、LPガスバルク of 材料費・工事費の価格となります。

※ ガス工事は別途費用が発生します。

※ 集中監視端末が光回線又はPHS回線となりますが、PHS回線の場合、別途通信費が発生します。



《自立型コージェネレーション(左) 大容量LPガスバルク(右)》